

2026年3月31日 全7頁

## Indicators Update

# 2026年2月鉱工業生産

自動車工業などの減産で低下、先行きは弱含む見込み

経済調査部

エコノミスト

ビリング 安奈

エコノミスト

中村 華奈子

### [要約]

- 2026年2月の生産指数は前月比▲2.1%と3カ月ぶりに低下した。内訳を見ると、自動車工業や金属製品工業などの減産が下押し要因となった。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は弱含むとみている。AI・データセンターを中心に需要は底堅いものの、中東情勢の緊迫化が生産の下押し要因になろう。また、日中関係の悪化やトランプ米政権の高関税政策が日本経済にもたらす悪影響にも注意が必要だ。
- 2026年4月7日に公表予定の2月分の景気動向指数は、先行CIが前月差+0.9ptの113.0、一致CIが同▲1.5ptの116.4と予想する。この予測値に基づくと、2月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2025年						2026年		3月	4月
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
鉱工業生産	▲1.0	▲1.3	+1.8	+0.6	▲2.0	+0.6	+4.3	▲2.1		
コンセンサス								▲2.0		
DIR予想								▲2.2		
生産予測調査									+3.8	+3.3
補正值(最頻値)									+3.8	
出荷	▲1.5	+0.1	+0.7	+0.9	▲1.0	▲1.1	+3.8	▲1.6		
在庫	+0.4	▲0.6	+0.3	+0.1	▲1.9	+0.6	▲0.8	+0.3		
在庫率	+0.3	+1.5	▲1.6	▲1.8	▲0.1	+1.3	▲4.6	+2.3		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

## 【生産】自動車工業や金属製品工業などの減産で3カ月ぶりに低下

2026年2月の生産指数は前月比▲2.1%と3カ月ぶりに低下した。自動車工業や金属製品工業などの減産が下押し要因となったが、経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

生産指数を業種別に見ると、15業種中12業種が前月から低下した。自動車工業（前月比▲3.6%）は1月に統計処理上の理由で上振れしていた反動もあり、小型トラック（同▲23.7%）などが減産となった。また、金属製品工業（同▲5.9%）や電子部品・デバイス工業（同▲3.1%）なども低下した。内訳を見ると、金属製品工業では産業用アルミニウム製品（同▲39.4%）などが、電子部品・デバイス工業ではアクティブ型液晶パネル（大型）（同▲25.6%）などが減産となった。経済産業省「鉱工業出荷内訳表」によると、金属製品工業と電子部品・デバイス工業の出荷指数は国内向け、輸出向けのいずれも低下した。

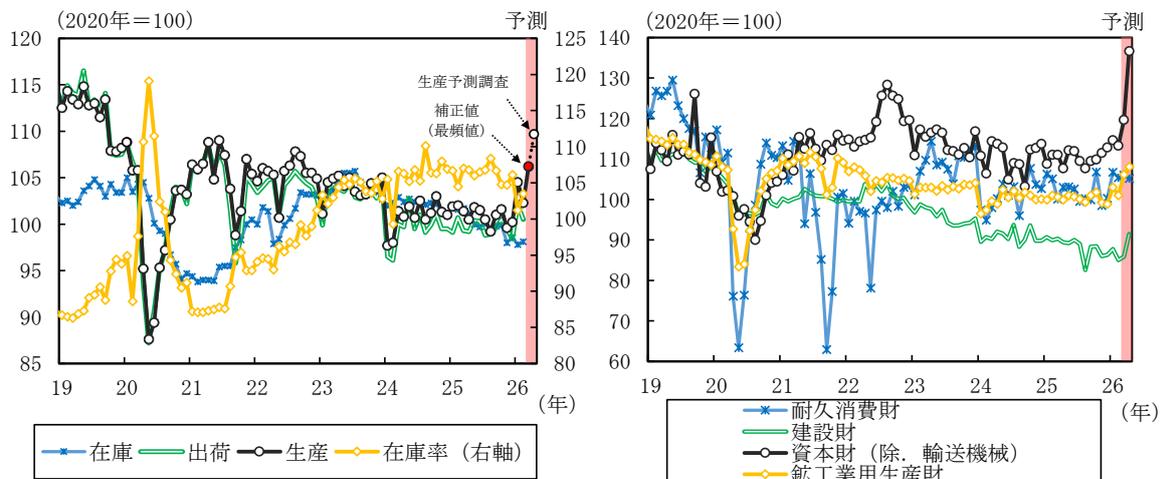
他方、鉄鋼・非鉄金属工業（同+2.3%）や化学工業（除.無機・有機化学工業・医薬品）（同+1.3%）など3業種は前月から上昇した。各業種の内訳を見ると、鉄鋼・非鉄金属工業では通信用ケーブル光ファイバ製品（同+33.8%）などが、化学工業（除.無機・有機化学工業・医薬品）では乳液・化粧水類（同+3.8%）などが増産となった。

財別に見ると、生産財（前月比▲2.0%）、資本財（除.輸送機械）（同▲1.1%）、建設財（同▲3.1%）、非耐久消費財（同▲0.8%）、耐久消費財（同▲1.2%）のいずれも減産となった。

## 【出荷・在庫】出荷指数は電子部品・デバイス工業などを中心に2カ月ぶりに低下

2026年2月の出荷指数は前月比▲1.6%と2カ月ぶりに低下した。業種別では、電子部品・デバイス工業（同▲9.0%）や無機・有機化学工業（同▲6.4%）など15業種中12業種が低下した。財別に見ると、生産財、資本財（除.輸送機械）、建設財、非耐久消費財は低下した一方、耐久消費財は上昇した。在庫指数は同+0.3%、在庫率指数は同+2.3%だった。

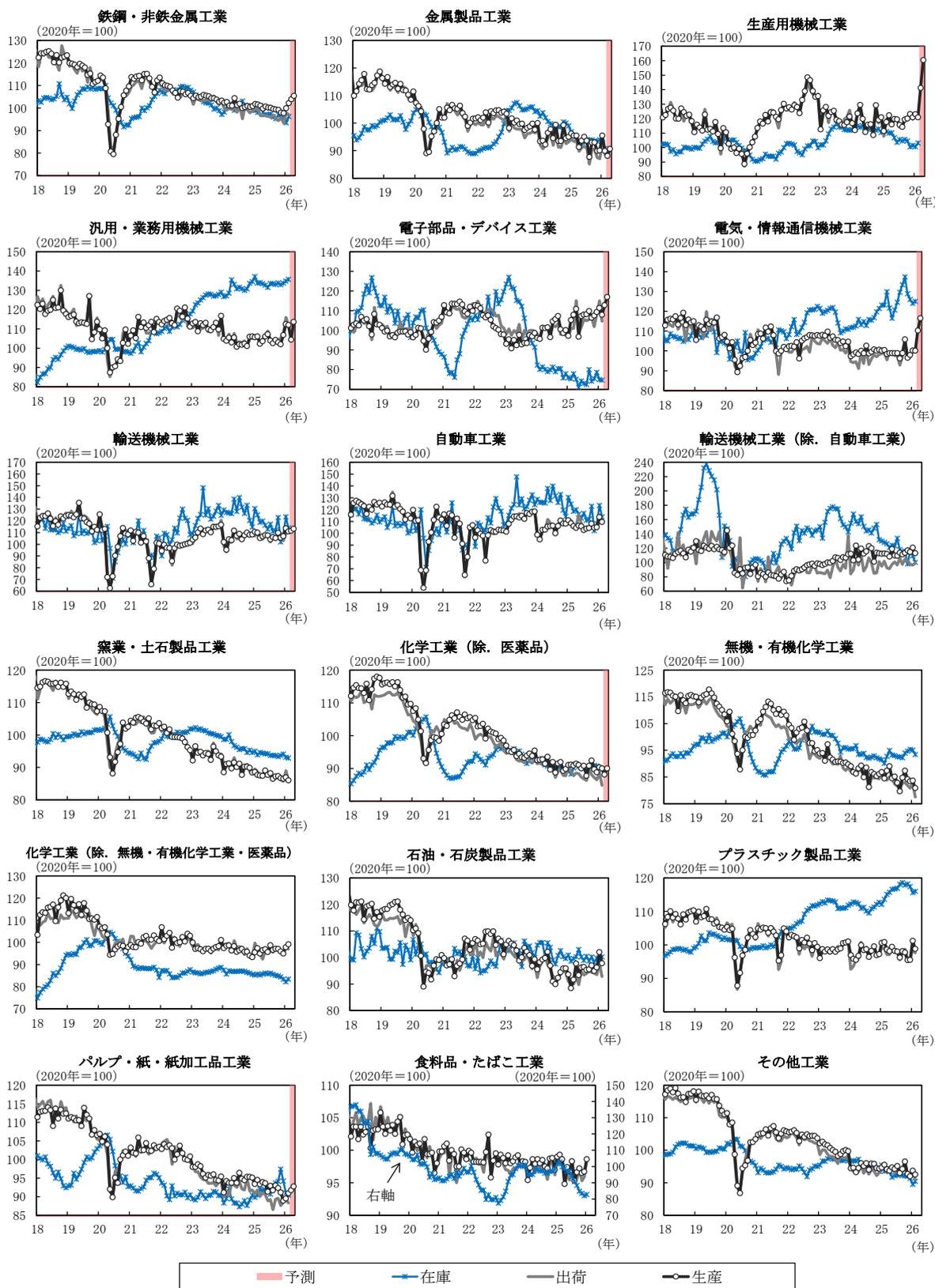
図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



(注) 生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表 3 : 業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業 (除. 医薬品) の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

## 【先行き】中東情勢の緊迫化などの影響で生産指数は弱含む見込み

先行きの生産指数は弱含むとみている。AI・データセンター関連を中心に需要は底堅いものの、中東情勢の緊迫化による供給制約や当該地域向けの輸出の停滞などが国内生産を下押しするだろう。

2026年2月28日に始まった米国・イスラエルによるイラン攻撃を受け、ホルムズ海峡は事実上封鎖されている。日本が輸入する原油の9割超は同海峡を経由しており、原油供給を巡る不確実性は高まっている。国内には3月27日時点で237日分の石油備蓄があるものの（国家備蓄・民間備蓄・産油国共同備蓄の合計）<sup>1</sup>、封鎖状態が長期化すれば供給制約が強まり、生産活動への影響が深刻化するおそれがある<sup>2</sup>。

原油は工場の操業に不可欠な重油や軽油の原料であり、その調達難を背景に、既に一部の国内工場では稼働を停止している<sup>3</sup>。加えて、石油由来のナフサ（粗製ガソリン）を原料とするエチレンの生産の減少も始まった。エチレンは基礎化学品として用途が広く、エチレンを原料とする製品の生産にも影響が幅広く波及している<sup>4</sup>。また、日本の中東向け輸出が停滞することで、生産が下押しされるおそれもある。自動車業界の一部では、中東向け車種の減産が既に行われている<sup>5</sup>。

このほか、日中関係の悪化やトランプ米政権の高関税政策など、日本経済の下押し要因にも引き続き注意が必要だ<sup>6</sup>。

製造工業生産予測調査を見ると、3月の生産指数は前月比+3.8%と見込まれている。業種別では11業種中7業種が上昇する見通しだ。生産用機械工業（同+16.8%）や電気・情報通信機械工業（同+10.1%）、電子部品・デバイス工業（同+4.5%）などの上昇が見込まれている。生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）<sup>7</sup>でも3月は同+3.8%と上昇が見込まれている。

4月の生産指数も前月比+3.3%と増産が見込まれている。業種別では11業種中10業種が上昇する見通しだ。3月に引き続き生産用機械工業（同+13.6%）や電気・情報通信機械工業（同+5.7%）などの増産が見込まれるほか、3月には減産が見込まれている汎用・業務用機械工業（同+8.8%）などでも増産が見込まれている。

---

<sup>1</sup> 資源エネルギー庁「[石油備蓄の状況（推計値の速報）](#)」（2026年3月31日閲覧）

<sup>2</sup> 詳細は、田村統久・畑中宏仁「[中東産原油等の輸入10%減少で日本経済はマイナス成長へ](#)」（大和総研レポート、2026年3月18日）を参照。

<sup>3</sup> 日本経済新聞 電子版「[ホルムズ海峡封鎖、国内工場・運輸に波及 火力発電の出力抑制や船減便](#)」（2026年3月24日）

<sup>4</sup> 日本経済新聞 電子版「[三菱ケミカルG、樹脂製品を再値上げ ホルムズ影響で原料高騰続く](#)」（2026年3月27日）

<sup>5</sup> 産経新聞 電子版「[トヨタ4月も中東向け2万4000台減産 情勢悪化を踏まえた対応、現地社員の安全最優先](#)」（2026年3月24日）

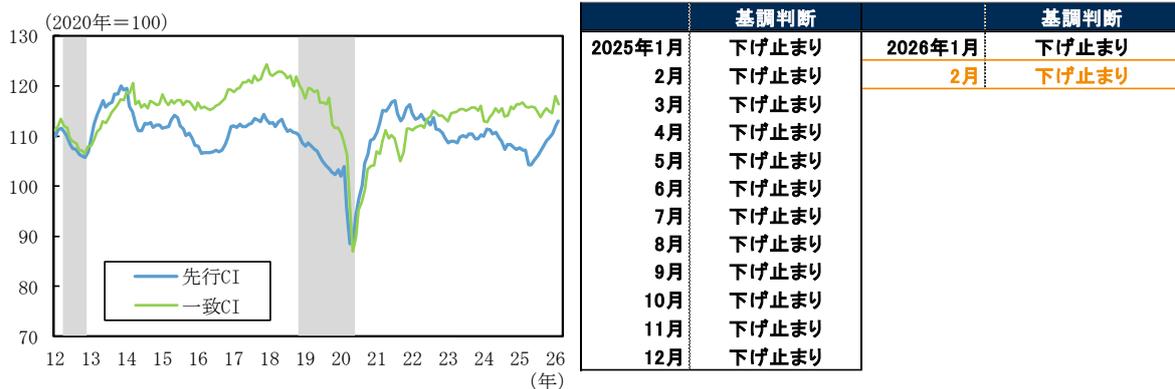
<sup>6</sup> 詳細は、当社の「[日本経済見通し：2026年3月](#)」（2026年3月24日）を参照。

<sup>7</sup> 生産計画は生産実績よりも上振れした値となることが多いため、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）が公表されている。

## 【26年2月景気動向指数】先行CIは上昇、一致CIは低下を見込む

鉱工業指数の結果を受けて、2026年4月7日に公表予定の2月分の景気動向指数は、先行CIが前月差+0.9ptの113.0、一致CIが同▲1.5ptの116.4と予想する（図表4）。先行CIでは構成指標のうち、消費者態度指数や中小企業売上げ見通しDIなどが前月から改善した。一致CIでは構成指標のうち、投資財出荷指数（除輸送機械）や鉱工業用生産財出荷指数などが悪化した。この予測値に基づくと、2026年2月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

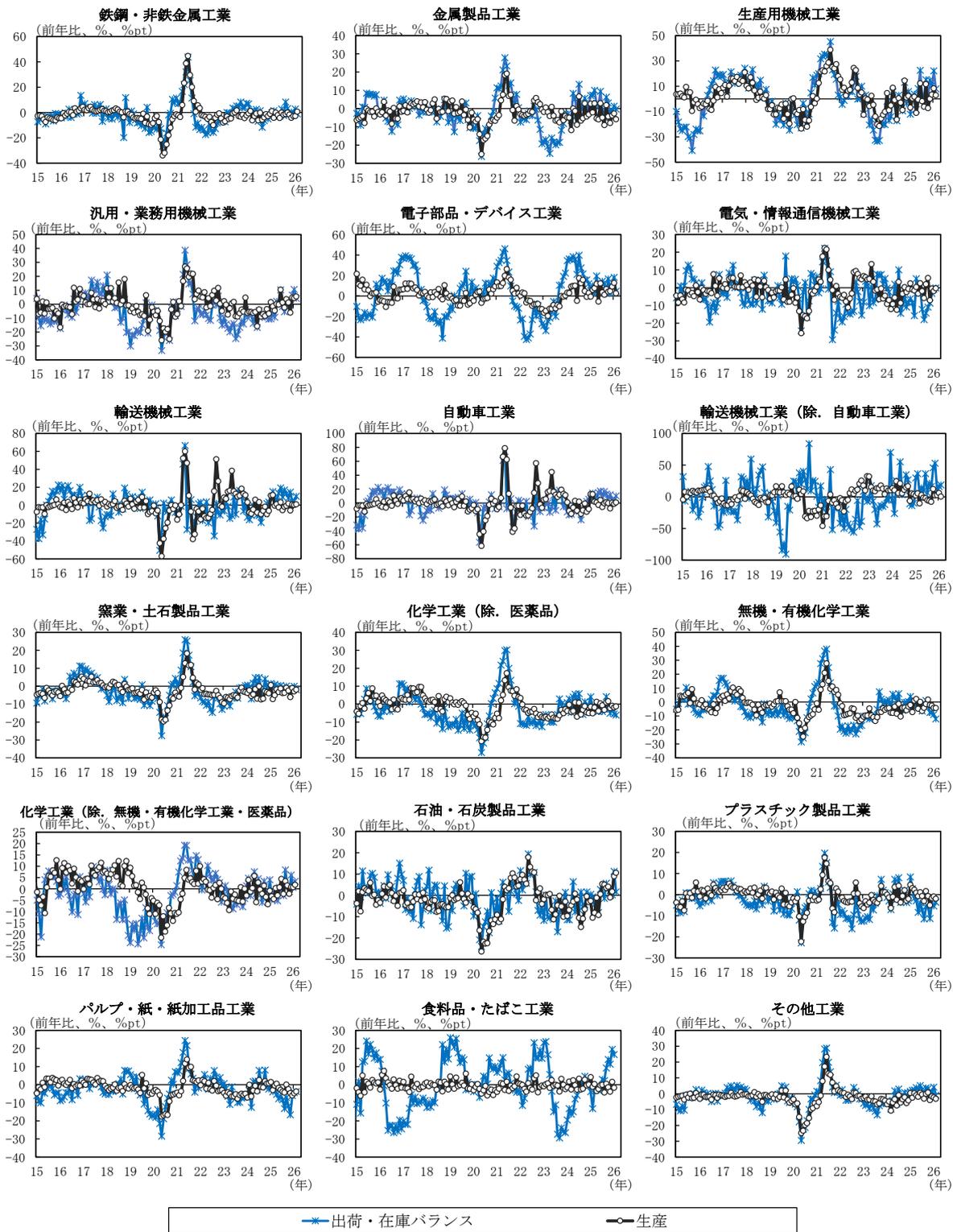
図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移



（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドウは景気後退期。2026年2月の基調判断は大和総研予想。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

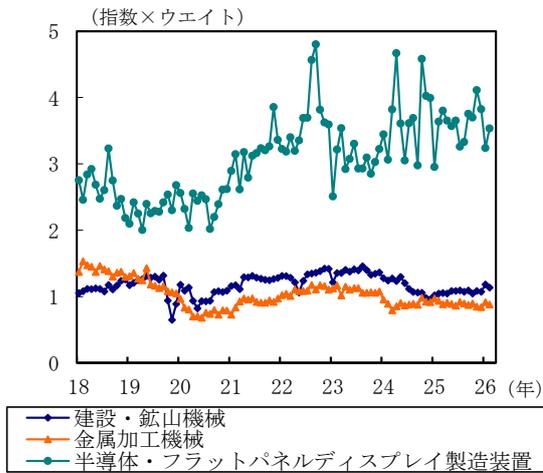
**業種別 出荷・在庫バランスと生産**



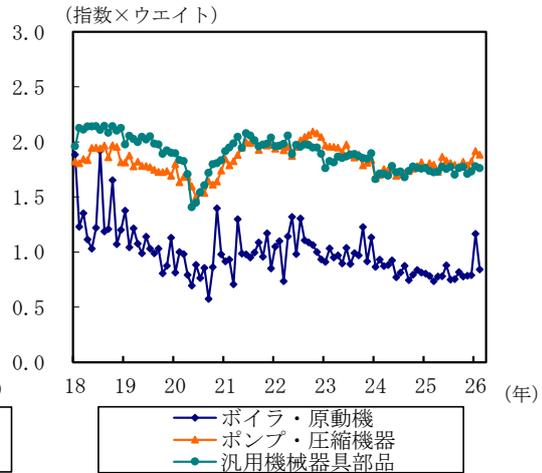
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。  
 (注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。  
 (出所) 経済産業省統計より大和総研作成

## 主要産業の生産動向(季節調整値)

## 生産用機械



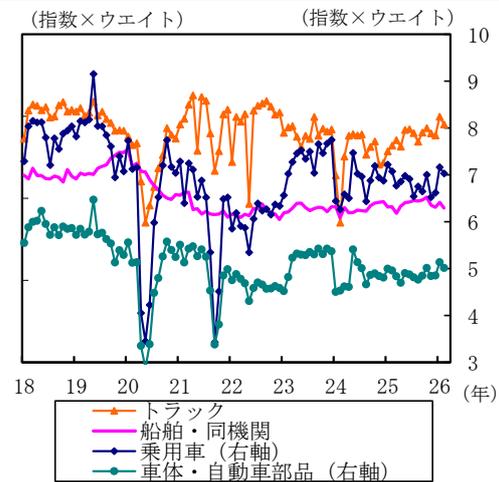
## 汎用・業務用機械



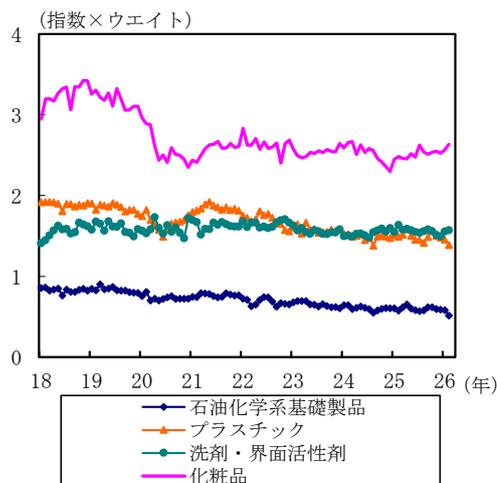
## 電子部品・デバイス



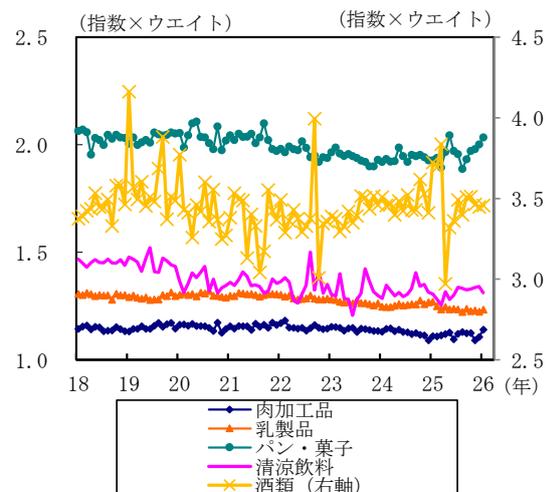
## 輸送機械



## 化学



## 食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成